

令和2(2020)年2月5日

第2号

発行 | かしわざき
男女共同参画推進市民会議

あいむ柏崎

ひと ひと
— 女と男 共につくる希望の未来 —

寄稿

「男ではいけませんか?」「女では不都合ですか?」

公益財団法人新潟県女性財団

前理事長 大島 照美子 さん



なぜ今、男女共同参画社会づくりが必要なのでしょう?

それは男女の人権を尊重し、活力ある地域社会を持続可能にするためです。

そのために 国、地方自治体、市町村等で根拠法も定められています。

少子高齢化が進んでいると言われて久しい日本社会です。かつては生産年齢人口約11人で1人の高齢者を支えていた社会でしたが、やがて1.3人で1人の高齢者を支えなければならない時代になると言われています。少子高齢化、人口減少社会の現実です。そんな状況の中で、活力ある社会の持続のために、あらゆる分野で意思決定の場に男女共に参加、即ち「参画」できる社会づくりが必要です。

それは、判断基準が男だから、女だからではなく、すべての男女が持てる個性と能力が発揮でき、自分の意思によって役割を分担し社会のあらゆる分野で共に協力し合える社会です。

しかし、男女共同参画社会づくりを阻害するものがあります。

それは「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担意識と、男はこうあるべき、女はこうあるべきという固定観念です。また、伝統慣習などへのこだわりのため、男は「主」女は「従」という思い込みです。

そして今は、両働き世帯が片働き世帯を大きく上回っている社会です。そんなふうに時代が変わっても、妻が職場から帰宅したら先に帰っていた夫が、「飯(めし)早くつくってくれよ。」と食事づくりは女の役目と当たり前のように言う人がいます。そんな時、「私も働いていますけど。」「男が家事をすることはいけませんか?」また、他の社員は出掛け、職場に女性社員が1人。そこへ来客の男性が「何だ、誰もいないのか。」「えっ、私がいますが。女性の私では不都合ですか?」

個人的課題は、社会的課題へとつながっています。

今までの当たり前にこれからは敏感な視点を持ち、向き不向きよりやる気をもって、多様性に富んだ豊かで活力ある社会を目指しましょう!!



10月19日(土)、柏崎市市民プラザにて大島照美子さんを講師にお迎えして勉強会を開催しました。

誰もが輝いて、イキイキと暮らせるまちづくりを目指して、今後も活動していくことの意義と方向性を確認することができました。

子どもと仕事 どっちも大事

輝く未来はワーク・ライフ・バランス

(仕事と生活の調和)

～あなたが大切だから、あなたの子育て応援します～



【子育てアンケート調査報告】

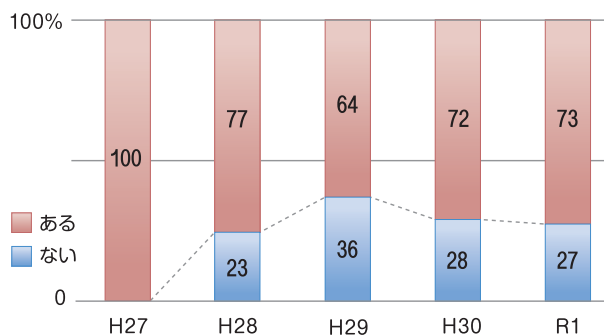
調査対象:「親子わんだーランド 生き・活き・子育て!」来場の父母

報告内容:平成27(2015)年～令和元(2019)年の調査から一部抜粋報告

※Q2、Q4～Q7:令和元(2019)年データ

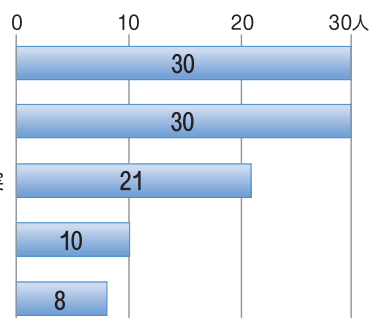
〈結婚や出産による女性の仕事の変化〉

Q1 女性の方に伺います。結婚や出産によって、仕事について変化がありましたか？



Q2 女性が結婚・出産後も仕事を継続するためには、どのような環境が必要だと考えますか？(複数回答)

産休・育休明けからの保育園入園
休みの取得や勤務時間の短縮など
職場の理解と取り組み
小学校入学後の放課後の預かり充実
地域内での子育てサポート
子育てヘルパー

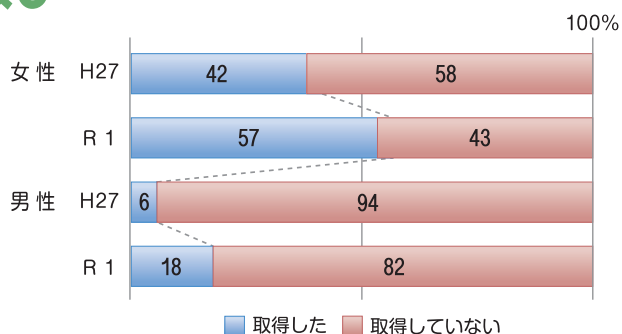


結婚や出産により、退職やパートなどの短時間就業への移行や正社員から非常勤雇用として再就職など、女性の就業継続への影響が大きくなっています。OECD(経済協力開発機構)のワーク・ライフ・バランスランキングでも、「日本では仕事と家庭の両立は困難であり、子どもが生まれたあとは仕事復帰ができにくく、出生数の低下につながっている。」と評されています。

アンケートからは、育児休業明け等のタイムリーな保育園入園や小学校入学後の放課後の預かりの充実とともに、柔軟な働き方や職場の理解など労働環境整備が必要とされています。子育てなど生活との両立を図りながら、働きたい女性が働き続けられる社会の実現が望まれます。

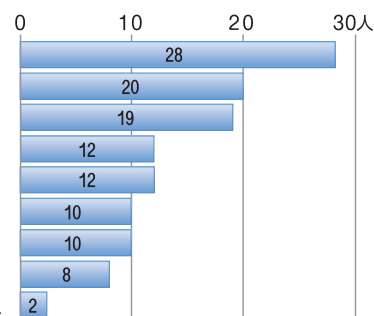
〈育児休業について〉

Q3 育児休業は取得しましたか？



Q4 男性が育児休業を取得しやすい環境にするには、どのような取り組みが必要だと思いますか？(複数回答)

育休中の経済的支援
職員の意識改革
育児休業の義務化
業務遂行体制の工夫・見直し
代替要員の確保
育休中に職場の状況を情報提供
職場復帰時の支援
制度内容の情報提供
育児休業取得者から体験談を聞く

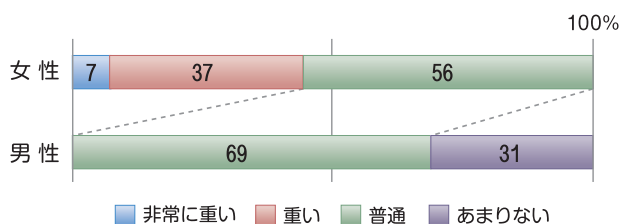


取得件数は少ないですが、男性の育児休業取得が確実に増加しています。取得した父親からは「子どもがとても愛おしい」「子育ての大変さを実感」、また、母親からは「出産後の体調の悪さや不安の中、夫が居てくれることで安心できた」などの声がありました。

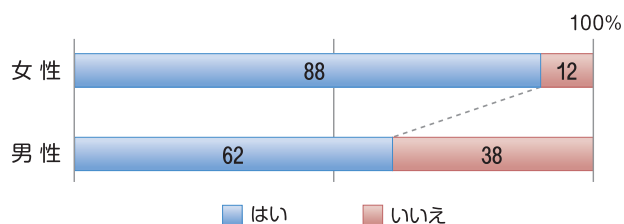
平成29(2017)年内閣府「仕事と生活の調和レポート」によると、育児休業を取得した男性の家事・育児時間が取得しない男性よりも多い傾向だそうです。夫婦協働の子育ては、男性の育児休業取得がスタート!? しかし、まだまだ男性の育児休業は取得しにくい状況も顕著であり、職場の意識改革や育児休業取得中の経済的支援が求められています。

〈家事・育児の分担〉

Q5 家事・育児の分担度について



Q6 パートナーに家事・育児の分担を望みますか？



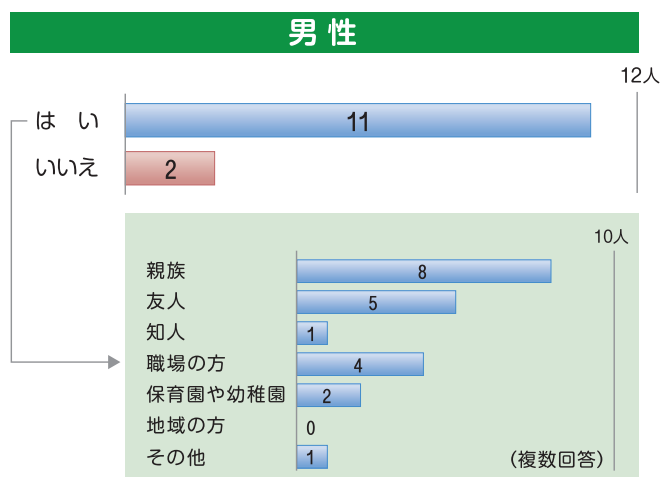
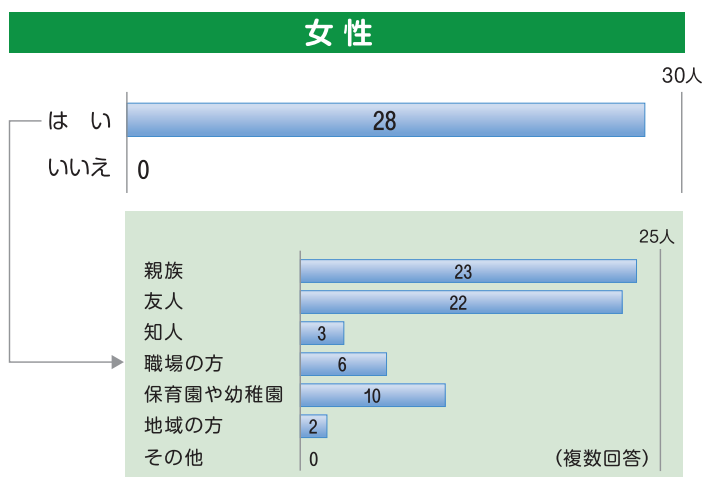
日常生活における母親の家事・育児に関する負担感は重く、パートナーへの分担を望む割合も高い傾向でした。総務省「平成28年社会生活基本調査」でも、6歳未満の子どもを持つ男性の家事・育児関連時間は1日当たり83分、女性は454分と男女差は依然として大きい状況が報告されています。参加者の母親からも「夫は子どもと遊んでくれるが受診や保育園、学校のことは母親」「共働きで、夫は子育てには協力的だが家事は妻の役割になっている」などの声がありました。子育てを担う父親を「イクメン」と称賛がありますが、母親の子育ては「当たり前」と、褒められることは少ないのではないのでしょうか。

令和元(2019)年内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」結果では、固定的な性別役割分担意識「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に、反対が59.8%と賛成を上回りましたが、まだまだ、労働環境も含めた子育て世代と共生する地域社会の意識を変えていくことが重要です。



〈子育て相談〉

Q7 子育ての悩みを相談できる人はいますか？



子育ては喜びも多いですが、誰もが迷いや悩みも抱えるものです。参加者からも「日常的に細かな心配や悩みが尽きない」との声がありました。アンケートからは、身近な親族や友人の存在とともに、保育園・幼稚園、そして職場の存在が重要なサポートを担っていることが分かりました。子育て中の親が誰かとつながる、家庭外の活動とつながることが大事です。子育て世代を含めた地域交流を深め、孤立させない「つながるサポート」を構築したいものです。

「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」についての子育てアンケートの報告をご覧になり、皆さんのような感想を持たれましたか？ アンケートにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

平成30(2018)年の柏崎市における出生数は522人、高齢化率33.3%、人口動態・前年度より約1,000人の減。柏崎市においても少子高齢化・人口減少が加速化しています。皆さんは、どのような地域社会を目指しますか？ 皆さんにとって幸せや豊かさとは何ですか？

誰もが何らかの生きづらさを抱えやすい現状です。自己決定は重要ですが自己責任として課題をとらえず、「男性だから」「女性だから」という意識だけではなく、誰もがその人らしく多様な生き方を認め合い、互いに尊重し合う社会を目指したいものです。子育て世代の「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」を労働環境も含めた地域社会全体で応援していきましょう。

「子どもは宝・輝く未来」

(報告／本間良子)

「親子わんだーランド 生き・活き・子育て！」 を開催しました

2019年 7月28日(日) 会場／柏崎市市民プラザ 参加者／240人

真夏の太陽をよそに、「親子わんだーランド 生き・活き・子育て！」を市民プラザの快適な室内で開催しました。

当事業は、育児の不安や悩みを共有し応援したいという目的で開始して、今年度で15回目となりました。ご家族やお友達と一緒に遊べるコーナーがたくさんあり、みんなで楽しく過ごせる空間です。

運営には毎年多くの皆さまから協力をいただいておりますが、今回は新たな団体からも参加していただきました。柏崎市消費者協会の「えちゴンのフェルトストラップ作り」では、子どもたちにもものづくりの楽しさを体験してもらいました。県歯科衛生士会柏崎ブロックからは、親から子へ「正しい歯磨きの仕方」を楽しく伝えられるようアドバイスをいただきました。また、柏崎子ども劇場の「ブンブンゴマ作り」では、子どもたちが自ら考え工夫して工作している姿が印象的でした。

スタッフとして毎年来場してくださるお子さんの成長を見守ることができ、そして子育ての悩み等を相談しあえる場でもあり、「ほっこり」とさせてもらえました。今年の夏は東京オリンピック大会後に開催を予定しています。どうぞご期待ください。

(報告／大掛隆)



私たちは柏崎の 「ハッピー・パートナー企業」です



新潟県では、男女が共に働きやすく、仕事と家庭等の両立、女性従業員の育成や登用などに積極的に取り組む企業を「ハッピー・パートナー企業」として支援しています。

柏崎市ホームページ
ハッピー・パートナー
企業募集



「働きやすい職場を目指して」

学校法人 新潟工科大学 藤橋1719

新潟工科大学は、「ものづくりこそ産業界発展の原点である」との信念のもと、多くの企業経営者が産業界および地域の発展に貢献する技術者を養成することを目指して設立された「企業がつくったものづくり大学」です。学生によりよい学びと環境を提供することを第一目標としていますが、それを担う教職員にとっても働きやすい職場となるよう環境づくりに取り組んでいますので、一部をご紹介します。

- ・職員の実情に合わせフレキシブルに年次有給休暇を取得できるよう、年次有給休暇の時間単位取得制度を導入しています
- ・月に1度、管理監督者と職員との面談を行うことにより、業務改善や職場環境について相談できる体制を整備しています
- ・ハラスメントの防止に関する規程を定め、相談員を複数名配置しています
- ・雇用形態や男女の別を問わず資格取得に向けた支援を実施しています

また、中期経営計画の柱の一つとして、教職員にとって働きやすい職場を目指し、ワーキンググループを組織して施策の検討を進めています。求められる大学及び職場のあり方は日々変化していますが、それらに対応しながら働きやすい環境をつくるために今後も様々な取り組みを実施していきます。



理事長
吉岡 謙一さん

「お陰様で皆様に支えられて55年」『お客様第一』と『働きやすさの両立』をめざしています

株式会社 柏崎自動車学校 茨目1-9-10

理 念 「当校が理念としている『お客様第一』と『働きやすさ』の両立は？ 休み方や労働時間どうする？」
「サービス業なんだし、それは難しいでしょうね。両立は。」
「何で？ 両方の期待には応えないと。」

現 状 「農繁期には休みたいし…」「親と子どもにも手がかかります。」
「じゃあ、お客様が多い時季は休日返上？」
「年休は取れていますが、休日は子どもの行事や、地域のイベントもあるし。」

課 題 「交代でやってみる？」
「今のままでは難しいです。担当できる人とそうでない人がいます。」
「皆かなりやるよ。」「違います。」
「じゃあ、もっと多くの資格がとれるよう互いに応援しよう。」

好 事 例 「大変なんです。介護までいかないんですが親が。パートにしてください！」
「大事な戦力が困ったな。」
「では、期限はなしで正規復帰に大いに期待して、条件を決めましょう。」

途 上 「勤務時間の短縮は課題だよなあ。」
「他所はもっと大変でしょう。」「でも今のままで人材の確保できる？」
「うちは今年県内で唯一全国表彰を受けたじゃないですか。」
「教習の質が高いこととそれは別。女性職員の超勤を減らすことから始めよう。」
「当面は新たなパートでローテーションを組んでみます。」

(ハッピー・パートナー企業としては恥ずかしい限りの会話でした。)
限界もありますが、『働きやすさ』取り組み中です。



代表取締役社長
山田 秀さん

柏崎の女性史

女性の権利を訴えて 田中 キン

たなか

現在は多くの女性たちが政治の場で活躍していますが、およそ70年前に遡ってみると、女性は選挙権すら持っていませんでした。昭和21(1946)年戦後初の衆議院議員総選挙は、初めて女性に参政権が認められた選挙として注目され、39名の女性国会議員が誕生。柏崎において女性運動を牽引したのが、刈羽郡内郷村(現西山町)の田中キンでした。

明治末期に起こった女性参政権運動にキンは共鳴し、中央の市川房枝らと交わり、柏崎の運動を中心になって推し進めます。女性の社会進出が急激に広まった昭和初期、女性運動に関わる者は「尖端ガール」「モガ」などと嘲笑され、危険分子として警察から監視される存在でもありました。そうした状況の中、昭和5(1930)年に婦選獲得同盟刈羽支部を立ち上げるなど女性の政治参加の実現を目指し、戦後は女性の地位向上に尽力したのです。

夫の季次郎が残した日記には、日々奔走する姿が詳しく記されています。朝一番の列車で出かけて夜遅く帰宅する、市川房枝を招いて講演会や談話会を行う、村の女性たちを集めて茶の湯や生花の講習会を開くなど。この日記は柏崎の女性運動の歴史が詰まった貴重な資料といえます。

その生涯のほとんどを政治運動にささげたキン。昭和22(1947)年県会議員に立候補した際、自身の思いを熱く訴えました。「女性の立場から女性の地位向上を期したい、それが多年の念願であった。女性の地位は新憲法によって保障されたとはいえ、女性の努力なくしては地位の向上も期待することができない。」と。現在の私たちは様々な権利を保障されていますが、その背景には、先人たちの努力と長い歴史があったのです。

(協力/早川美奈子さん)

写真: 柏崎市立博物館蔵



明治19年(1886)～昭和33年(1958)



夫の季次郎が残した日記

柏崎市の女性管理職は45人!

世界経済フォーラムの資料では、世界と日本の男女格差の順位が出ています。

日本は153か国中121位だそうです。

特に政治分野144位、経済分野115位と低く、政治への参画と管理職比率が低い状況となっています。

柏崎市では?

市職員の管理職と管理的立場にある265人のうち女性は45人(17%)です。県内他市と比べると低い位置にあります。

皆さんの会社や地域のコミュニティなどの状況はどうですか?

役職は男性ばかりということはありませんか?

女性の意見も反映されていると思われませんか?

男女共同参画とは、男女の性別にかかわらず、それぞれの個性と能力が発揮される社会を作ることです。

性別による固定観念を捨て、誰もが輝けるまちにしていきたいと思います。

(柏崎市人権啓発・男女共同参画室)

あとがき

度重なる台風被害で、日々当たり前と信じていた生活が自然の猛威で断たれてしまった被災者の皆さんのことを考え、自分の目の前の当たり前に感謝しております。

日々当たり前として発言、行動しているものは男女平等でしょうか? 職場の管理職の人数は? 女性は出産や育児などで離職していませんか? それは充分納得いくものでしたか?

現在、国は法整備を進めてサポート体制は徐々に進んできておりますが、ひとりひとりが幸せな社会のために、自分の一歩を前に踏み出してみることも大切だと思います。

(会長/須田年美)



こちらからご覧いただけます

— 柏崎市ホームページ —

市民会議
会員募集



あいむ
柏崎
バック
ナンバー

